



## 平成 28 年度 海水浴場視察報告

JLA溺水事故防止プロジェクト本部

### 1. 実施目的

海水浴場の特徴とライフセーバーの活動状況（監視・救助体制，使用機材，パトロールログ，傷病者等記録票の活用，クラブ運営，雇用，公的救助機関等との関係）の把握，新たな課題や検討事項の抽出，要望（例えば，協会配付及び販売のパトロールユニフォームに関する事項）の聴取，パトロールに関する事項の伝達（例えば，AEDの特徴やサマリーを公的救助機関に貸出す場合の対応）を目的に海水浴場の視察を行った。

### 2. 対象海水浴場

視察を行った海水浴場を表-1に示す。

表-1 対象海水浴場

月日	エリア	海水浴場	委員
8月5日（金）	湘南	①片瀬西浜，②平塚，③大磯， ④湯河原	石川，風間，菊地，中山
8月12日（金）	伊豆	⑤熱川，⑥下田白浜	石川，菊地，福島，小林 中山
8月19日（金）	茨城・千葉	⑦大洗サンビーチ，⑧大竹， ⑨本須賀，⑩片貝	石川，菊地，福島

### 3. 視察概要

#### 〔1〕 片瀬西浜

遊泳エリア	固定．エリアフラッグなし．
遊泳判断	遊泳可否はライフセーバーが提案，海水浴場組合決定．
監視方法	ローテーション（パトロール，タワー，本部）
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用． その他，クラブ作成のラッシュガード、ハットを着用．
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，PWC，IRB
救護機材	FA，CPA対応の機材は本部に準備．
傷病者記録票	活用．本部に準備．
刺胞毒（クラゲ）	腫れがひどい場合，氷嚢で冷やす． 症状が酷い場合，医療機関への受診を勧めている．
連携	公的救助機関，地方行政との連携有（防災訓練の実施等）
施設	水道水が本部に設置され使用可能（適宜，海水など洗い落とせる）． 通年利用のクラブハウス完備．
監視契約	海水浴場組合・夏季対策委員会等→神奈川県LS連盟→西浜SLSC
LS雇用	神奈川県LS連盟→有給ライフセーバー 無給ライフセーバーの交通費などは西浜SLSCから直接支給
その他	



[2] 平塚

遊泳エリア	固定（離岸堤背後）．エリアフラッグあり．
遊泳判断	遊泳可否はライフセーバーが決定．
監視方法	ローテーション（パトロール，タワー，本部）
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用．
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，SUP，PWC
救護機材	FA，CPA対応の機材は本部に準備．
傷病者記録票	未活用．
刺胞毒（クラゲ）	海水にて洗浄，本人希望があれば氷をお渡し．
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は放送とオレンジフラッグ掲揚．
連携	避難訓練，救助連携訓練等をシーズン1回程度実施．
施設	水道水が本部に設置され使用可能（適宜，海水など洗い落とせる）． 通年利用のクラブハウス完備．
監視契約	湘南ベルマーレ（ビーチパーク指定管理者）→湘南ひらつかLSC
LS雇用	湘南ひらつかLSC→ライフセーバー
その他	



〔3〕 大磯

遊泳エリア	調整. エリアフラッグあり. 大磯港東側近傍の岩礁域が危険（赤色コーンで遊泳禁止エリアに設定）.
遊泳判断	遊泳可否はライフサーバーが提案, 大磯町役場と茶屋組合と3者協議で決定.
監視方法	ローテーション（パトロール, タワー, 本部） 常駐する救急救命士or看護師含め医療従事者の人数が充実.
ユニフォーム	協会配付, 販売のパトロールユニフォーム着用.
救助機材	レスキューボード, レスキューチューブ, PWC
救護機材	FA対応の機材は各タワーに準備. CPA対応の機材は本部に準備.
傷病者記録票	活用. 各タワーに準備.
刺胞毒（クラゲ）	クラゲ毒被害への対応は, 救護スタッフ（看護師か救急救命士）が触手除去後, 必要に応じてキンカンを使用.
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は放送とオレンジフラッグ掲揚.
連携	公的救助機関, 地方行政との連携有（防災訓練の実施等）
施設	水道水が本部に設置され使用可能（適宜, 海水など洗い落とせる）.
監視契約	大磯町→民間企業→大磯LSC
LS雇用	大磯LSC→ライフセーバー
その他	吸引機導入.



〔4〕 湯河原

遊泳エリア	調整。エリアフラッグあり。
遊泳判断	遊泳可否はライフセーバーが提案，海の家に相談後決定。
監視方法	ローテーション（パトロール，タワー，本部）
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用。
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，PWC
救護機材	CPA対応の機材は本部に準備。
傷病者記録票	活用。本部に準備。
刺胞毒（クラゲ）	海水で洗浄，カチリ塗布，繁忙期は看護師が警備本部に常駐。
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は放送とオレンジフラッグ掲揚。
連携	湯河原町，湯河原消防と海水浴場開設期間前に津波避難訓練実施。
施設	水道水が本部に設置され使用可能（適宜，海水など洗い落とせる）。
監視契約	湯河原町→民間企業→湯河原LSC
LS雇用	湯河原LSC→ライフセーバー
その他	レスボード等，資器材が整っており，保管方法から意識の高さが伺えた。



〔5〕 伊豆熱川

遊泳エリア	調整. エリアフラッグあり. 海水浴場南側の防波堤隣接部で離岸流が卓越. 遊泳エリア内に暗岩が点在し、干潮時は視認できるので自力で避けられるが、満潮時は視認しづらいためにライフセーバーが部分的に立ち入りを制限している.
遊泳判断	遊泳可否はライフセーバーが提案, 町に相談後決定.
監視方法	ローテーション (パトロール, タワー, 本部)
ユニフォーム	協会配付, 販売のパトロールユニフォーム着用.
救助機材	レスキューボード, レスキューチューブ
救護機材	FA, CPA対応の機材は本部に準備.
傷病者記録票	活用. 本部に準備.
刺胞毒 (クラゲ)	海水で患部を洗いヒヤロン等で冷却. 対応中の声がけとして ①酔などがあればかけると痛みが和らぐことがある事を伝える. ②もし冷やしても痛みが治らない状態が悪化する場合は医療機関を受診する事を伝える. ・カツオノエボシの場合は海水で触手を取り除き患部を冷やすだけとし, 医療機関の受診を普通のクラゲより強めにすすめる. ・再発防止として患者にどこでクラゲに刺されたのか場所を特定し, 沖パトのときにクラゲが出没した場所の周辺にいる浴客に注意喚起し再発防止策を取っている.
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は放送.
連携	消防, 海保等との訓練は未実施.
施設	水道は道路を挟んだ場所にあり, 本部付近にない (基本日中浴びない).
監視契約	東伊豆町→熱川温泉観光協会→JLA
LS雇用	JLA→ライフセーバー
その他	本部から徒歩5分圏内に大きな宿舎があり冷暖房完備. 宿舎内での自炊が充実し, 健康管理が充実.



[6] 下田白浜

遊泳エリア	調整. エリアフラッグあり.
遊泳判断	遊泳可否はライフセーバーが提案, 町に相談後決定.
監視方法	各タワー固定 (タワーの判断でパトロール実施) .
ユニフォーム	クラブのパトロールユニフォーム着用.
救助機材	レスキューボード, レスキューチューブ, PWC
救護機材	FA, CPA対応の機材は本部, 各タワーに準備.
傷病者記録票	活用. 本部, 各タワーに準備.
刺胞毒 (クラゲ)	冷却を勧めるがライフセーバーとしての対処は行わない. 自助努力を促す. 程度が酷いようであれば温水を使用しライフセーバーが対処. 基本あまりクラゲの被害がない.
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は放送とU旗掲揚.
連携	消防、海保等との訓練は未実施
施設	水道は道路を挟んだ場所にあり, 本部付近にない (基本日中浴びない) .
監視契約	下田市夏期海岸対策協議会→下田LSC
LS雇用	下田LSC→ライフセーバー
その他	



〔7〕 大洗サンビーチ

遊泳エリア	調整。エリアフラッグあり。
遊泳判断	遊泳可否はライフサーバーが提案，町に相談後決定。
監視方法	各タワー固定（タワーの判断でパトロール実施）。 地元漁師との連携（PWCでのパトロール）+町による車両（拡声器）による注意喚起。
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用。
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，PWC
救護機材	FA，CPA対応の機材は本部，各タワーに準備。
傷病者記録票	未活用。クラブ独自の記録票を使用しているが3枚複写ではない（消防・警察・海上保安庁等，複数の公的救助機関からの聴取困難。
刺胞毒（クラゲ）	①まずは監視塔で対応。砂地で温めておいたペットボトルのお湯を患部にかける。②改善されない場合は本部へ誘導して，さらに熱めのお湯に浸して経過を見る。③ショック状態といった重い状態であれば，救急車は要請しない。紹介のみをする。
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は放送と各タワーにて赤旗でのサイン。
連携	連携訓練はしていないが，監視期間に入る前に消防，警察，海保，病院，行政機関へ訪問し，監視期間中の連携及び協力依頼を行っている。
施設	水道水は本部に設置され，いつでも使用可能。海水など洗い落とせる。出産後のLSのために，本部施設内にベビーベット完備。
監視契約	大洗観光協会→大洗SLSC
LS雇用	大洗SLSC→ライフサーバー
その他	地域の子供たちへのボランティア活動を積極的に実施。 ランディール（砂上車いす）の設置。 バリアフリーの海水浴場であるため，各所に段差がない。





〔8〕 大竹

遊泳エリア	調整。エリアフラッグあり。
遊泳判断	遊泳可否はライフセーバーが提案，海の家に相談後決定。
監視方法	各タワー固定（タワーの判断でパトロール実施）。
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用。
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，PWC，IRB 水浴場内がドン深なため，各タワー前にてチューブとフィンがセットに配備されている。
救護機材	FA，CPA対応の機材は本部，各タワーに準備。 副子固定の資器材が準備されている。
傷病者記録票	活用。本部，各タワーに準備。
刺胞毒（クラゲ）	海水をボトルに確保し遮光・遮温した状態で保管。 対処は海水で洗浄し，軽度の場合は氷にて冷却。重症の場合はクラブハウス内の温水シャワーを使用。予後医療機関受診を勧める。
津波	津波警報時の海水浴客への伝達方法は，放送と各タワーにてホイッスルを使用。更にオレンジ旗と発煙筒を使用する。本部内では事前に録音された避難警告メッセージを放送し続ける設定にし，ライフセーバーは率先避難者となる。
連携	公的救助機関，地方行政との連携有。 有事の際、LSが設置した現場指揮板を活用し、消防・警察・海上保安庁が情報共有する。
施設	水道水は本部に設置され，いつでも使用可能。海水など洗い落とせる。各タワーは固定なため水道水使用は困難。 本部と通年利用のクラブハウス及び宿泊施設が併設されている。更には資器材庫の大きさがかなり充実している。
監視契約	銚田市→大竹SLSC
LS雇用	大竹SLSC→ライフセーバー
その他	調理師が食事管理し，LSの健康管理に気を使っている。 無線機や拡声器が充実している。水浴場内への放送機材を使用したインフォメーションは日本語と英語を使用している。



[9] 本須賀

遊泳エリア	固定．エリアフラッグあり．
遊泳判断	遊泳可否は海の家 의견を取り入れ，ライフセーバーが提案，役所が決定．
監視方法	ローテーション（パトロール，タワー，本部）
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用．
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，傷病者搬送用車両，PWC
救護機材	FA，CPA対応の機材は本部に準備．
傷病者記録票	活用．（要周知徹底）
刺胞毒（クラゲ）	海水または弱流水にて洗浄，氷嚢にて冷却，必要に医療機関の受診を指示．
津波	対策本部の放送設備を活用．
連携	銚子海上保安部，山武地域広域行政組合，山武警察との連携有．
施設	水道水は本部に設置され，いつでも使用可能．海水など洗い落とせる．各タワーは固定なため水道水使用は困難． 通年利用のクラブハウス完備．
監視契約	行政（山武市）→第三セクター（千葉県レクリエーション都市開発株式会社）
LS雇用	第三セクター（千葉県レクリエーション都市開発株式会社）→ライフセーバー
その他	ランディ（砂上車いす）の設置．



[10] 片貝

遊泳エリア	固定．エリアフラッグあり．
遊泳判断	遊泳可否は海の家，駐車場警備会社の意見を取り入れ，ライフセーバーが提案，役所が決定．
監視方法	ローテーション（パトロール，タワー）、本部
ユニフォーム	協会配付，販売のパトロールユニフォーム着用．
救助機材	レスキューボード，レスキューチューブ，傷病者搬送用車両，PWC
救護機材	FA，CPA対応の機材は本部に準備．
傷病者記録票	活用．（要周知徹底）
刺胞毒（クラゲ）	海水または弱流水にて洗浄，氷嚢にて冷却，必要に医療機関の受診を指示．
津波	オレンジフラッグをタワーに掲揚，本部放送設備の活用．
連携	銚子海上保安部，山武郡市広域行政組合消防本部，東金警察，九十九里水難救済会，九十九里町との合同訓練あり．
施設	水道水は本部に設置され，いつでも使用可能．海水など洗い落とせる．各タワーは固定なため水道水使用は困難． 通年利用のクラブハウス完備．
監視契約	九十九里町→第三セクター（千葉県レクリエーション都市開発株式会社）
LS雇用	第三セクター→ライフセーバー
その他	



#### 4. 主な課題・検討事項

各海水浴場でのヒアリング結果より、以下の課題、検討事項が考えられた。

- ・ レスキューレポート、傷病者等記録票の活用（意義）を周知する。
- ・ パトロールユニフォームを改善（サイズ調整、縫製、素材等）する。
- ・ スイムウェアを改善（素材、紐等）する。
- ・ クラゲに刺された場合の処置を明らかにする。
- ・ PWC及びIRB, 傷病者搬送車両の安全管理運用指針を作成する（検討分科会など設置）。
- ・ 活動形態の明確化（業務 or ボランティア）、各地域の実情を踏まえ明確にする。
- ・ 保障制度の明確化（ライフセーバーの事故・怪我、海水浴場内および近隣区域・海域における救助活動等対応時の事故・トラブル）が必要。
- ・ 各海水浴場の状況を踏まえ最適人員（ライフセーバー）配置の目安を設定する。
- ・ 各地域の実情を踏まえ遊泳条件旗（コンディショニングフラッグ）の決定方法を明確にする。
- ・ レスキューレポートの提出方法について、携帯メール等の活用方法の検討。
- ・ バックボードの普及・使用状況把握と今後の課題の抽出。
- ・ 吸引機の導入の検討、課題の整理。

以上